

第304回 令和8年10月7日（水）

「判定について」

昔、資格を取って審判活動をしていたことがあります。プレーは一瞬ですから正しくジャッジできていたかどうか、自信が持てないこともありました。当時ベンチからはかなりプレッシャーがありましたし、難しいゲームに割り当てられたときは何日も前から憂鬱でした。

自分がコーチをしていた時に、ジャッジが明らかに間違えていたという経験もあります。選手のコンディショニング的にも自分の試合運びでも負けるはずのない試合を落としたことも何度かあります。それも含めてゲームだと思いうようにしていました。

プロの世界では生活が懸かっているのでビデオやAI判定が取り入れられるようになってきました。確かに誰もが納得するようなジャッジをしてくれます。いずれ大きな大会では人間はいらなくなるのかもしれないと思ったりもします。

プロ野球とか見てみると、微妙な判定の時にはリクエストというビデオ検証が認められました。判定が覆ることもかなりあって、人間の判断の限界を感じます。それでもITによってジャッジが変わってしまうことには少し違和感があります。

映像という動かしようがない証拠がある以上、仕方がないことなのですが、ジャッジが変わってしまう度に「人間は機械に勝てない」ということを再認識します。プロという最高峰で技術を磨いた最高の審判がジャッジしているのにもかかわらず、いとも簡単に判定が覆されてしまいます。それなら初めからロボット審判でいいような気がします。

経験や修行を重ねた最高の審判が試合を任されているのですから、その審判の判断は絶対なのではないのかなと思います。むしろAIの微妙な判断をプロフェッショナルな審判が修正すべきなのではないでしょうか。何度もリクエストする場面を見ると、審判へのリスペクトが薄れていくような危機感がぬぐえなくなります。

選手とレフリーで試合はできあがります。選手もベンチも審判がジャッジしてくれていることに感謝し、その判断をリスペクトすることがスポーツで大事なことです。

判定が間違っていればその後のジャッジにも少なからず影響してしまいます。同じ基準で一貫した判定ができなくなることは選手にとっても良くない環境です。

世の中「理不尽」なことはあって当たり前のことです。すべてが正解になることはありません。いずれ政治でも政治家が間違っていたらAIが修正する時代になるかもしれません。人間の価値が下がり続けるような気がします。